

・・・ 普通科志向へ 教育の多様化への対応と新校舎への移転 ・・・

◆商業科の後退と普通科志向

日本経済も40年代に入って高度経済成長期に入り、世は理工ブームを呼び、若年労働者が金の卵と言われ、求人件数も増加した。

理工ブームの影響によって工業系の学校がもてはやされたが、それと裏腹に商業科は相対的地位の低落を余儀なくされ、直ちに入学者の質的低下に連動した。さらに進学志向の高まりが受験競争の激化を招き、普通科志向が急速に進んだ。商業科の凋落は本校だけに限ったことではなく、全国的傾向として現れ、これに対処すべく小学科制・類型制の採用や、コンピュータの導入等の施策がなされ、これと軌を一にして本校でも45年より類型制が採用され、電算機が導入された。

◆女子上位の生徒数

昭和40年当初、高校への進学率は5割程度であったが進学率の向上に伴い、質的低下は勿論、わけでも女子生徒の増加は目覚ましく、43年入学生からは女子生徒数が男子生徒を上回るようになった。45年には全校生徒数における女子数が男子数を上回り、この年からは男女共学制の下、在学中必ず一度は共学をできるクラス編成にした。

◆類型制導入

類型制が導入されたのは昭和45年度からである。44年度入学生が1年の時に希望をとって、一般Aを3クラス、B(デザイン類型)を1クラス、C(経理類型)を2クラスに分けることになった。2年次からの実施に向けて生徒の希望がうまく調整できるか、担任の説明が統一的に行われるか等の心配もあった。しかし、蓋を開けてみると学校の心配をよそにデザイン類型は40名の希望があり、クラスを編成することが可能となった。2年目は単独でクラス編成ができる程の希望がなく、一般商業類型との混合組で編成した。3・4年目は単独で1クラスの編成が可能であった。

しかし、類型制展開において種々の問題点が生じ、また当時のクラブ(部活動)全員強制加入についての是非(施設設備・指導者不足)と合わせ、職員会議の審議を経て類型制は2コース制で継続し、クラブ加入は強制しないという方針に至った。

◆中田ヶ原 新校舎の完成

昭和46年3月末、新校舎第1期工事の商業科特別教室棟が完成した。5月下旬、新校舎へ机・椅子を搬入し、7月7日から授業を開始した。しかし全面移転ではなく、デザイン類型のD組を除く2年生全クラスが週1日だけの移動授業を受けることになった。この状況での新校舎と旧校舎の併用は時間や体力のロスが目立つものであった。



昭和43年10月 体育クラブ管理棟竣工（グラウンド南端）



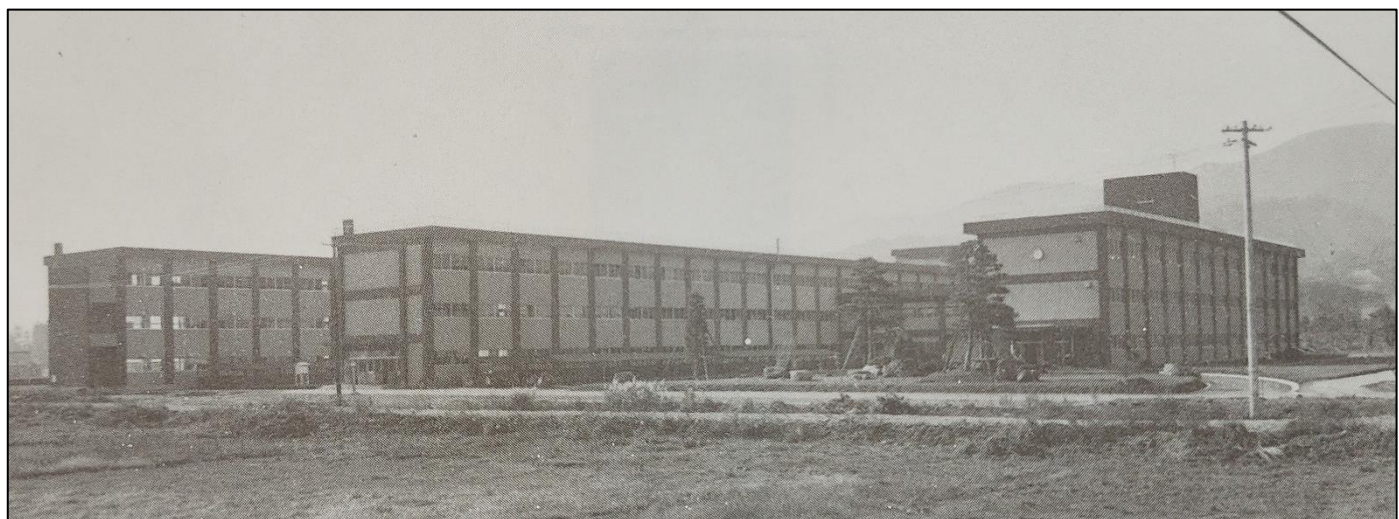
昭和47年9月移転作業 旧校舎(搬出)



旧校舎(搬入)



昭和48年 移転作業



昭和49年 中田原新校舎全景